

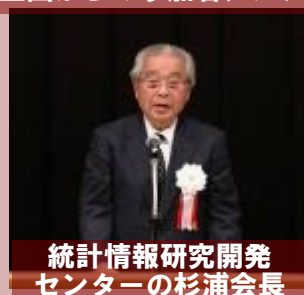
総務省・統計情報研究開発センター主催
第67回 全国統計大会 表彰式
第65回 統計グラフ全国コンクール
大分県立国東高等学校1年生の“**日本統計学会会長賞**”
上岡美月さんと母親の史子さんが



会場を埋め尽くす全国からの参加者、アチコチから方言が聞こえる賑やかな大会でした



主催者側挨拶を行う
野田総務大臣



統計情報研究開発
センターの杉浦会長



都道府県統計連絡協議会会長
東京都総務局統計部
熊谷部長



受賞者代表による
謝辞



各表彰状を授与する側の皆さん



受賞者側の皆さん

平成29年11月13日（月）午後1時半から午後4時まで、国立オリンピック記念青少年総合センターカルチャー棟で、総務省と統計情報研究開発センター主催《第67回全国統計大会》が開催されました。
《第67回全国統計大会》の各省大臣表彰はじめ《第65回統計グラフ全国コンクール》の入賞作品表彰、《日本統計学会会長賞》や《日本品質管理学会賞》の表彰、《大内賞》表彰の賞状授与が行われました。

主催者挨拶、祝辞の後、総務大臣、厚生労働大臣、農林水産大臣、経済産業大臣、国土交通大臣など各省大臣表彰に続いて《第65回統計グラフ全国コンクール》では応募26,447件から、特選の表彰、最後に《大内賞》表彰が行われました。
休憩後には「統計・データサイエンス活用セミナー」、受賞者のプレゼンテーションが行われ、午後4時に終了しました。

《第67回全国統計大会》の様様



ご本人の祝辞とあって緊張感が漂う中・・・明るい野田聖子総務大臣の声が響きました



各種統計に係わる活動が認められた皆さんと統計グラフコンクールの優秀作品制作の皆さん



奥野総務副大臣から表彰を受ける受賞者

《全国統計大会》は国や地方公共団体、関係団体などの統計関係者が一堂に会し、統計及び統計制度の進歩発展、統計の普及啓発、相互交流と研鑽を行うことを目的に開催するもので今年67回目の行事です。

“統計”は私たちが生活する中で欠くことのできないものですが「国勢調査」などの時期以外、必ずしも関心が高いとは言えません。ビッグデータの時代に入り、データの重要性が理解され、幅広い分野で“統計”への関心が高まっています。

《第67回全国統計大会》の前半は全国各地で総務省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省などの統計データの収集・調査に係わる皆さんに対する各省《大臣表彰》が行われました。

続いて《第65回統計グラフ全国コンクール》の応募作品の中から入賞者への表彰、大内兵衛博士を記念する《大内賞》授与、休憩後には第2回「統計・データサイエンス活用セミナー」が行われました。

《第67回全国統計大会》の様様

第2回「地方公共団体における統計利活用表彰」



《総務大臣賞》、静岡県・河森加奈子さん

奥野総務副大臣が表彰状を授与しました

第二次世界大戦敗戦直後の日本の状況を調査するために来日したライス調査団（米国政府スチュアート・ライス統計部長を団長とする）は「統計は国民の財産である」と統計データの積極的な開示、活用を指導しましたが、そうした統計データを地方公共団体で積極的に利用、活用するよう働きかけているのが総務省統計局です。



第2回「地方公共団体における統計利活用表彰」は5団体が選ばれ、静岡県健康福祉部の理事で少子化対策担当の・河森佳奈子さんが総務大臣賞を受賞、奥野総務副大臣から表彰状を授与されました。



《総務省統計局長賞》、東京都豊島区・齋藤 雅人さん

総務省統計局の千野局長が表彰状を授与しました



また、総務省統計局長賞を東京都豊島区総務部長の齋藤雅人さんが受賞、千野統計局長から表彰状を授与されました。

《第67回全国統計大会》の様様

第2回「地方公共団体における統計利活用表彰」



《特別賞》茨城県企画部統計課長・大森伸樹さん

第2回「地方公共団体における統計利活用表彰」特別賞には、茨城県、静岡県、佐賀県の3自治体が選ばれました。



最初の茨城県は「いばらき型ターゲットに訴求するデータマイニング」に取り組んだ茨城県企画部統計課長の大森伸樹さんが受賞しました。



《特別賞》静岡県健康増進課技監・佐藤圭子さん



二つ目は静岡県「健康課題の見える化～検診結果65万人のビッグデータをマッピング～」をテーマに静岡県健康推進課技監の佐藤圭子さんが受賞しました。



《特別賞》佐賀県統計分析課副課長・木原康一郎さん



三つ目は「人材流出県からの脱却を目指して、産業人材の定着、還流プロジェクト」に尽力の佐賀県統計分析課副課長の木原康一郎さんが受賞しました。

《第67回全国統計大会》の様様



総務省の奥野総務副大臣が表彰状を授与しました



厚生労働省の酒光政策統括官が表彰状を授与しました



農林水産大臣賞は大杉大臣官房統計部長が授与しました



《総務大臣表彰》は「経済センサス-活動調査-」、「労働力調査」、「小売物価統計調査」、「家計調査」、「個人企業経済調査」、紗愛生活基本調査等各種統計調査に貢献した570名余りの調査員に対して贈られたもので、代表して千葉県の金井直美さんと三重県の和田まき代さんが全国を受賞者を代表して奥野総務副大臣から表彰状を受け取りました。

続いて行われた《厚生労働大臣表彰》は558の厚生統計関係で個人表彰と団体表彰があり、個人表彰では都道府県職員・市町村職員表彰、統計調査員、団体等が、また労働統計では個人表彰の部で都道府県職員表彰、統計調査員表彰、団体や事業所等を表彰するもので、代表として京都府の伊藤恵美子さんが表彰状を受け取りました。

《農林水産大臣表彰》では「農林水産統計調査」に永年貢献した調査員と特別協力者等1,463名の皆さんが表彰されました。

受賞者を代表して広島県の土居米男さんが農林水産省の大杉大臣官房統計部長から表彰状を授与されました。

《第67回全国統計大会》の様



《経済産業大臣賞》

経済産業省の渡邊大臣官房調査統計グループ長が授与



《経済産業大臣表彰》は、「構造統計」と「動態統計」に関する調査に貢献した統計調査員など297名が表彰され、代表として長崎県の柴田幸徳さんが表彰状を受け取りました。

各省関係の表彰の最後《国土交通大臣表彰》は、「建設統計調査」について表彰が行われ、87の地方公共団体職員、調査員や事業所等が表彰されました。

代表して秋田県のシブヤ建設工業株式会社の渋谷守寿さんが表彰状を受け取りました。

以上が《各省大臣表彰》の様です。



《国土交通大臣賞》

国土交通省の大野総合政策局情報政策本部長が授与



《第65回統計グラフ全国コンクール》の表彰風景



《総務大臣賞》

総務省の奥野総務副大臣が表彰状を授与しました

《第65回統計グラフ全国コンクール》には全国から26,447件の応募がありましたが、その中から優秀作品が選ばれ、表彰が行われました。

《総務大臣賞》は大阪府吹田市立千里丘中学校3年の福永嘉恩君の「わたしにできる社会貢献」が選ばれ、奥野総務副大臣から表彰状を授与されました。



《文部科学大臣賞》には兵庫県神戸市立友が丘中学校3年生、三宅麗さんの「入れない、捨てない、広げない～私たちにもできる外来生物、被害予防」が選ばれ、ました。

文部科学省生涯学習政策局の神山生涯学習総括官が三宅麗さんに表彰状を授与しました。



《文部科学大臣賞》

文部科学省の神山生涯学習総括官が表彰状を授与しました



私に出来る社会貢献



【動機】

8月下旬になると毎年テレビでチャリティー番組がやっている。今年も沢山の募金(寄付)が集まっていた。私も幼少の頃は募金箱にお金を入れたという好奇心で募金をした。

しかし最近募金したのはいつだろうか？
それに私の周りで募金したという話は耳にしない。
テレビの画と現実が違っている。
実際はどうか？調査してみることにした。

◆社会への貢献意識

①あなたは、日頃、社会の一員として、何が社会のために役立ちたいと思っているか。



◆世界における日本の位置づけ

②-1 世界寄付指数ランキング

過去1カ月間について、「寄っている見知らぬ他人を手助けしたか」、「チャリティー団体などに寄付をしたか」、「チャリティー団体などにボランティアとして自分の時間を費やしたか」の3点を140カ国を対照に調査。



check!!

日本ではチャリティー番組やボランティア、寄付金のニュースを多く見ているのに、下位だったことに驚いた。G7においても最下位と残念な結果だ。

②-2 国民一人あたりの寄付金額【年間】



check!!

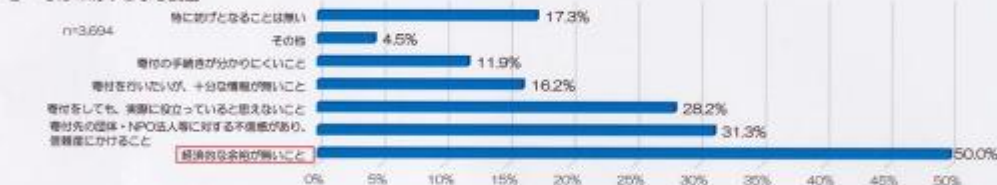
日本の国民一人あたりの寄付金額がアメリカの1/10ととても少ない事に驚いた。他国は寄付が身近で個人に行われている。

◆社会貢献における寄付の現状と意識

③ 平成27年の寄付経験の有無【全体と職業別】



④ 寄付の妨げとなる要因



check!!

日々の仕事に追われる中で寄付の機会がなかなかない。それでも自分のできる範囲で社会貢献を続けてほしい。

⑤-1 寄付方法 (不明を除く)



⑤-2 寄付をした分野 (不明を除く)



⑤-3 年間寄付金額【個人】(不明を除く)



⑤-4 年間寄付回数 (不明・0回を除く)



【感想】

今回調査を行い、多くの人が人の役に立ちたいと思っていることが分かった。しかし実際に行動していない人が大半だった。世界のなかでも大層に遅れを取っている。今回は主に寄付について統計を行ったが、これを見て少しでも皆さんの社会貢献に対する意識に変化が生まれればいいと思う。まずは私から、募金に行きます!!



参考文献：
①-1、①-2：日本国内の寄付金総額と、平成27年度社会貢献に関する意識調査
②-1：「チャリティー・USA」(Charities Aid Foundation)「Read the 2014 World Giving Index 2014」
②-2：「NPO法人 日本赤十字社」(Japan Red Cross Society)「2014 World Giving Index」
③-1、③-2、③-3、③-4、③-5、③-6、③-7：「日本赤十字社」(Japan Red Cross Society)「2014 World Giving Index」
④：「日本赤十字社」(Japan Red Cross Society)「2014 World Giving Index」

入れない捨てない拡げない

私たちにも出来る! 外来生物被害予防

外来生物(種)とは?… もともとその地域にいなかったのに人間の活動によって他の地域から持ちこまれた生物



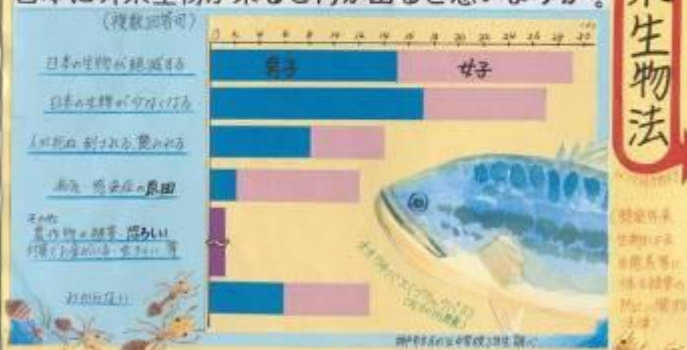
外来生物といえば何を思い浮かべますか?



対世界輸入額と入(帰)国者数



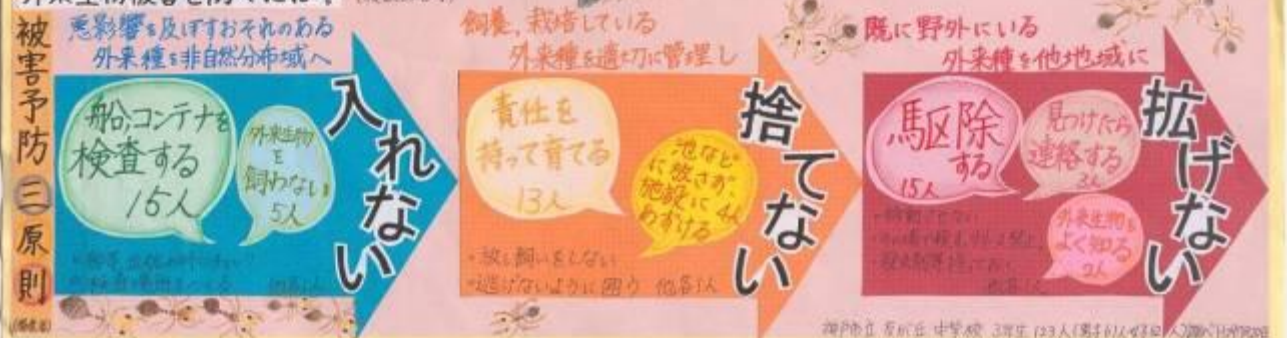
日本に外来生物が来ると何が困ると思いますか?



日本の特定外来生物種類数と兵庫県の外来生物ブラックリスト選定種数



外来生物被害を防ぐには? (複数回答可)



神戸市立 須賀丘 中学校 3年生 123人(男子61人 女子62人) 調査日 2016年10月25日

《第65回統計グラフ全国コンクール》の表彰風景



《日本統計学会会長賞》

日本統計学会の赤平会長が表彰状を授与しました



《日本統計学会会長賞》には大分県立国東高等学校1年生の上岡美月さんと母親の史子さんの「子どもの貧困と支援の輪」が選ばれました。



《日本品質管理学会賞》

日本品質管理学会の椿会長が表彰状を授与しました



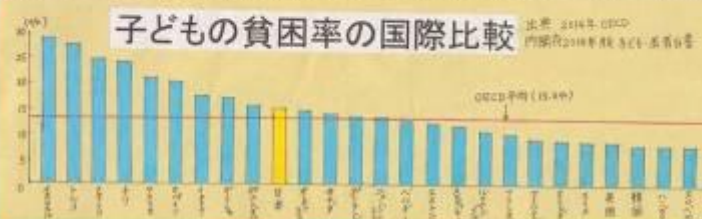
《日本品質管理学会賞》には新潟県上越市立春日小学校5年生の小川芽生さんの「消えてしまうの？郷土料理、残したい思い出の味」が選ばれ、日本品質管理学会の椿会長から表彰状を授与されました。

子どもの貧困と支援の輪

子どもの貧困はあなたのすぐそばにあるかもしれない...

現代の貧困は見えにくく、外見は子どもと一緒に食事を満足に採れない家庭が多くあるといわれている。子どもは見た目だけでなく、社会的なつながりが持てないのか、適切な食事が取れないのか、教育の機会が均等に与えられているのかなど、細かい把握と対策が必要になっている。子どもの貧困の深刻さや生活の基盤となる「食」についての意識を伝えていきたい。

日本の子どもの貧困率はOECD加盟国34か国中10番目に高く、OECD平均を上回っている。子どもがいる現役世帯のうち、ひとり親世帯の貧困率はOECD加盟国中最も高く、50.8%でOECD平均(31.0%)を上回っている。

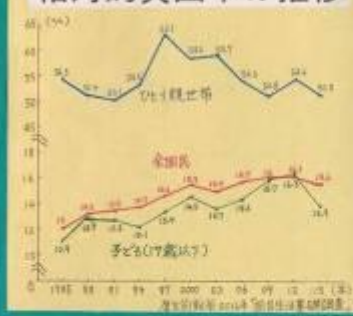


子どもの貧困率→平均的な所得の半分以下に満たない家庭で暮らす17歳以下の割合
相対的貧困率→同じ方法で算出した全世界の割合

子どもの7人に1人が貧困状態にある

貧困は世界規模で広がっていることは疑いない。子どもも多岐にわたる層には数字に表れない困難もある。

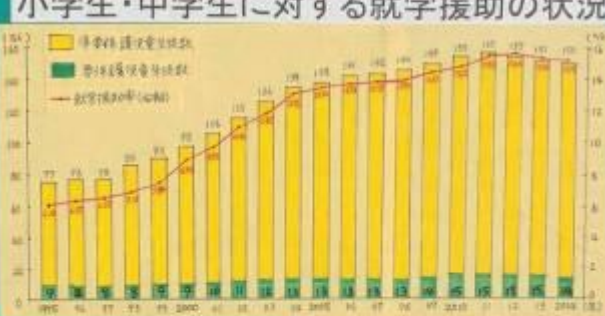
相対的貧困率の推移



子どもの栄養摂取、給食給み...

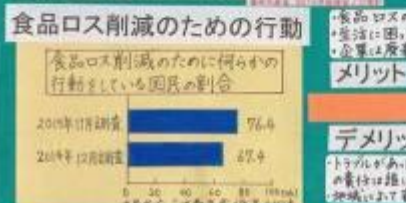


小学生・中学生に対する就学援助の状況

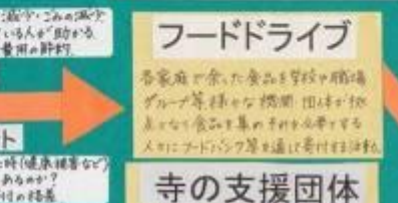


日本の「食品ロス」・約621万

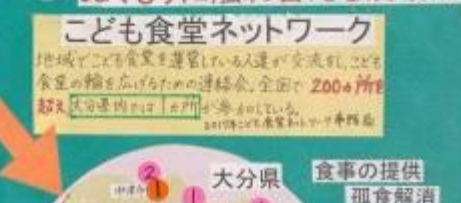
家庭系 うち可食部分と考えられる量・282万トン
事業系 うち可食部分と考えられる量・339万トン



食べ物を必要な人へ



「社会」「地域」「家庭」のめぐもりに触れ合える居場所



食品ロスの実態と原因



フードドライブ



寺の支援団体



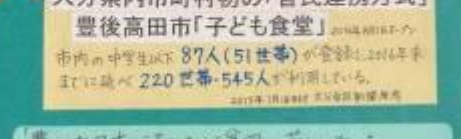
フードバンク



こども食堂ネットワーク



大分県内市町村初「官民連携方式」豊後高田市「子ども食堂」

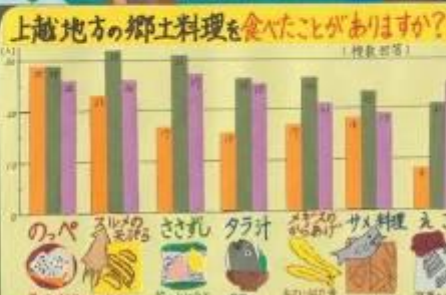


「豊かな日本」で子どもが貧困に苦しんでいる

経済的な理由で家族団らんや外出、趣味のお楽しみ活動の行事など子どもが大切な経験やつながりを感じられず、貧困に対する世間の偏見や差別にさらされる。貧困に対する世間の偏見や差別をなくす必要があり、支援の輪を広げていく必要がある。

消えてしまうの？郷土料理

残したい 思い出の味

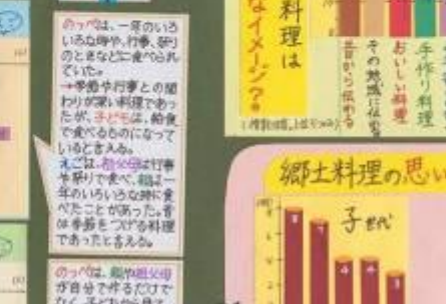
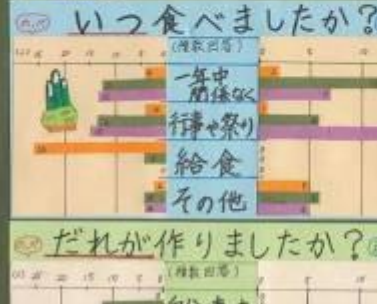


のべ、スルメ、のどろはどの世代も食べられていた。えご、スイカ、ケン、煮物などは年代が若くなるほど食べられていない。

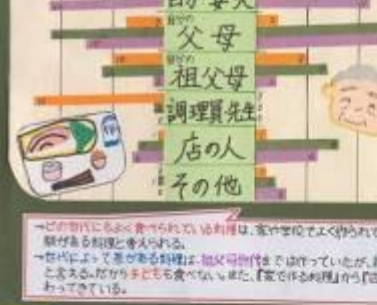
祖父は、どの料理も「食べたことがある」と回答が多かった。親は、子どもより食べた経験が多く、特に祖母より多い印象があった。子どもは、食べた経験があるものと、食べたことがないものの差が大きかった。



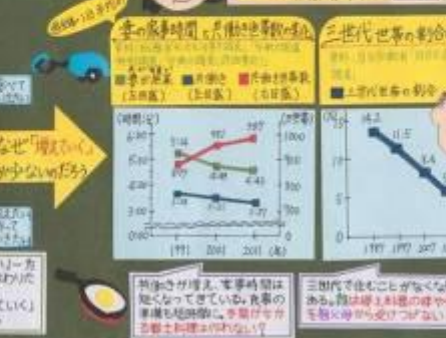
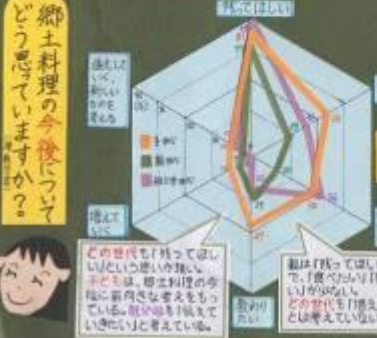
祖父は「おいしい」「おいしい」「おいしい」と回答が多かった。親は、子どもより食べた経験が多く、特に祖母より多い印象があった。子どもは、食べた経験があるものと、食べたことがないものの差が大きかった。



どの世代にもよく食べられていたのは、家でよく作られていた。祖母も作った経験がある料理と答えている。年代によって食べる料理は、祖父祖母代では作っていたが、親世代以降は作っていない料理と答えている。家で食べる料理は、祖母が作る料理が多い印象があった。



思い出の郷土料理は、祖母が作る料理が多かった。祖母が作る料理は、郷土料理の思い出として残っている。祖母が作る料理は、郷土料理の思い出として残っている。



郷土料理の今後について、どの世代も「残してほしい」という意見が多かった。親世代は「残してほしい」という意見が多かった。子どもは「残してほしい」という意見が多かった。

《第65回統計グラフ全国コンクール》の表彰風景



《第1部 特選》(小学校1、2年生)



特選第1部は茨城県土浦市立荒川沖小学校2年の川村怜愛さんの「大はっ見!生活科、やさい作りで家ぞくもコミュニケーション」が選ばれました。

また特選第2部は香川県高松市立太田南小学校3年の前田壮一朗君の「災害に備えよう〜地しんと火事をくらべてみると〜」が選ばれ、それぞれ統計情報研究開発センターの杉浦会長から表彰状を授与されました。



《第2部 特選》(小学校3、4年生)

統計情報研究開発センターの杉浦正健会長が表彰状を授与



《第67回全国統計大会》大内賞の授与風景



大内賞委員会の西村委員長から表彰状を授与される受賞者の皆さん



第二次世界大戦終戦後の混乱期にあつて、我が国の官庁統計などの再建・整備に尽力し、現在の政府統計はじめ、多くの統計事業に大きな足跡を残された大内兵衛博士の功績を称え、設けられたのが“大内賞”です。

永年、工業統計調査、労働力調査、商業統計調査等に従事された福島県の榑原和子さん、和歌山県の日根裕子さん、長野県的美谷島和子さん、福岡県の吉原節子さんの4名が受賞、西村委員長から表彰状が授与されました。

《第67回全国統計大会》統計の日の標語



総務省では統計の重要性に対する関心と理解を高め、統計調査に対する「統計の日」（毎年10月18日）が制定され、全国でいろいろな行事が催されます。

今年度の統計の日の標語には10,517点の応募があり、審査の結果、滋賀県守山市の統計調査員・近松清司さんの作品「統計が教えてくれる地域力」が特選に選ばれ表彰状並びに記念品が総務省の三宅政策統括官より授与されました。

標語を入れた左のような「統計の日」のポスターが制作されたり、広報媒体に活用されています。



《第67回全国統計大会》受賞者代表による謝辞



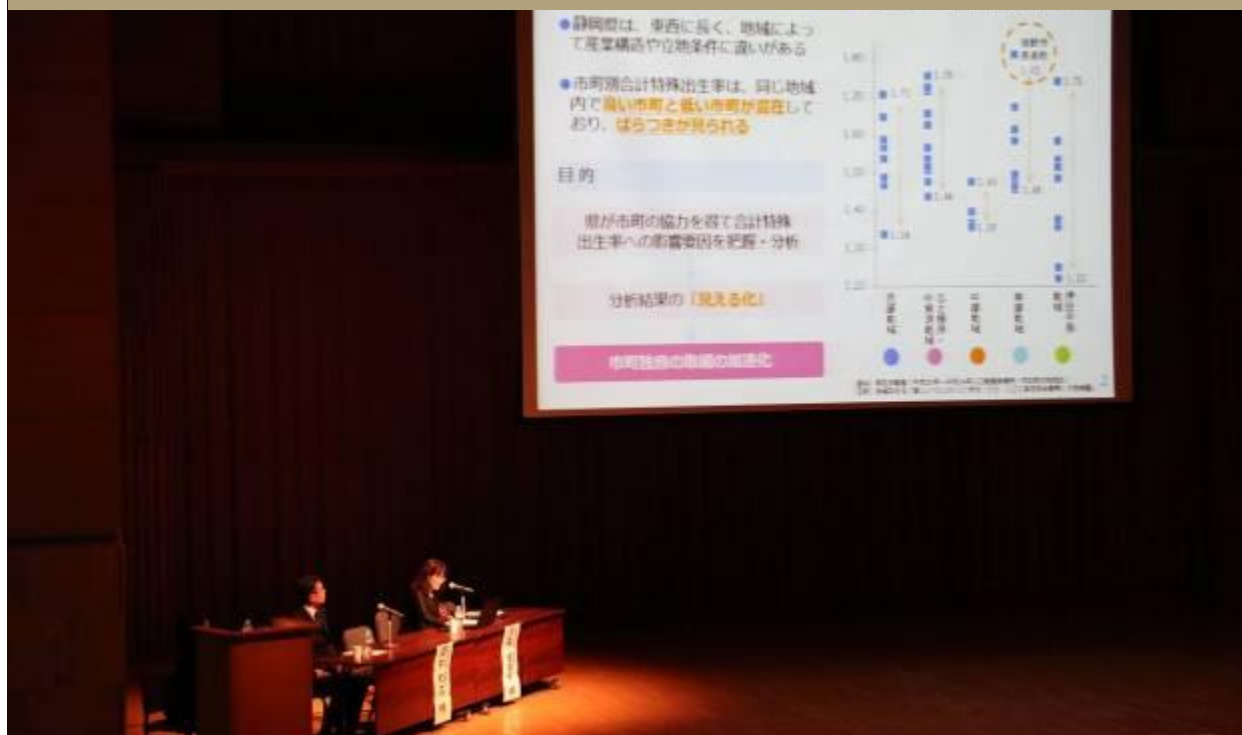
すべての表彰が終わったところで、受賞者を代表し、千葉県の金井さんが謝辞が述べました



受賞者代表としての金井さんの謝辞に併せ起立する受賞者の皆さん

《第67回全国統計大会》の様様

《統計・データサイエンス活用セミナー》での受賞内容紹介



人口流出に加え、少子化が進むふじの国・静岡県健康福祉部の少子化担当・河森加奈子さん
「少子化突破戦略の羅針盤」のタイトルで効果的な少子化対策について発表を行いました



グラフコンクールの審査委員長
統計センターの渡辺美智子特別参与



東京都豊島区都市整備部
酒井 和広さん



静岡県健康福祉部
河森 加奈子さん



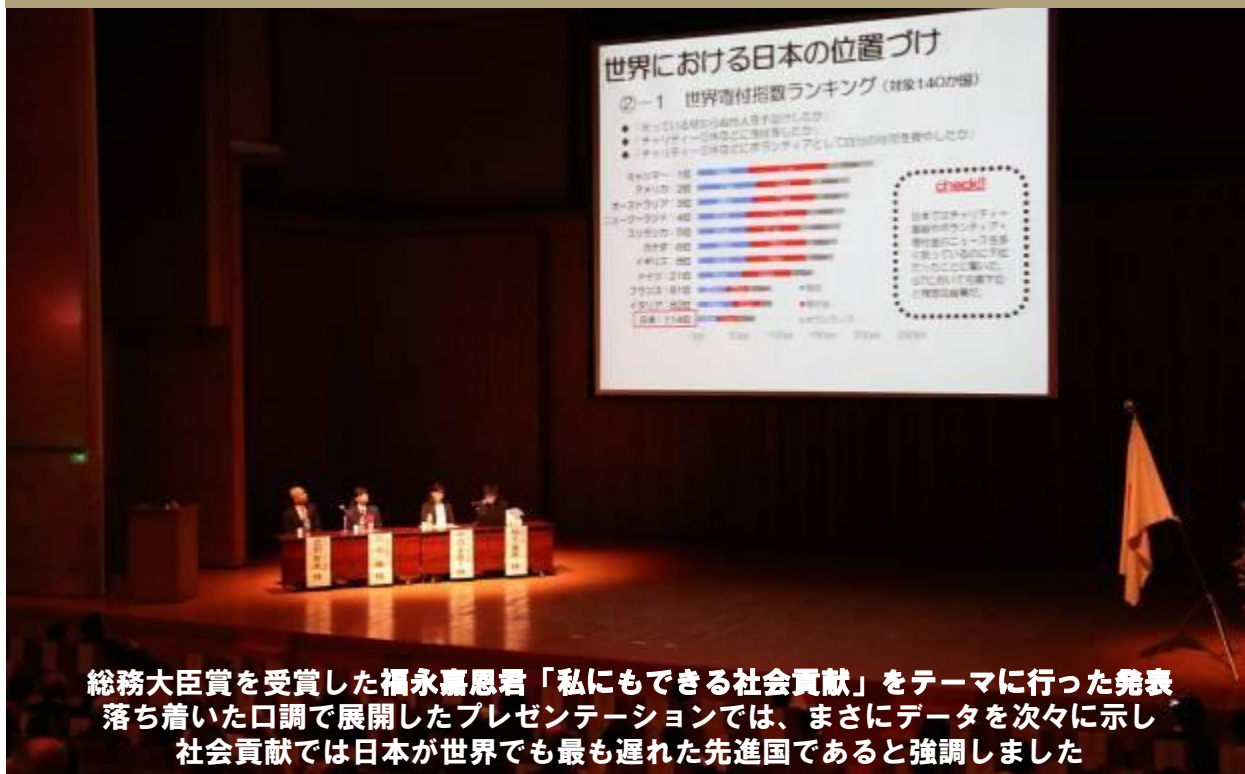
東京都豊島区都市整備部の酒井和広さん、豊島区内都市計画
の「GISポータル構築による業務改善」をテーマに
許認可業務をクラウドGISの運用で効率化しました

表彰式が終了したところで、統計グラフ全国コンクールの審査委員長を務めた渡辺美智子統計センター理事（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授）の司会で《統計・データサイエンス活用セミナー》が開催されました。

最初に総務大臣賞を受賞し静岡県健康福祉部の理事で少子化対策担当の・河森佳奈子さん、続いて総務省統計局長賞受賞の東京都豊島区都市整備部の酒井和広さんがそれぞれ受賞の背景等のプレゼンテーションを行いました。

《第67回全国統計大会》の様様

第65統計グラフ全国コンクールの受賞内容紹介



第65回統計グラフ
全国コンクール総務大臣賞を受賞した大阪府
吹田市立千里丘中学校
3年生の福永嘉恩君「私
にもできる社会貢献」を
テーマにプレゼンテー
ションを行いました。

文部科学大臣賞受賞の兵庫県神戸市立友が丘中学校3年の三宅麗さんが「入れない、捨てない、広げない～私たちにもできる外来生物被害予防」をテーマにプレゼンテーションを行い、渡辺美智子先生の質問に軽妙な回答を行い、会場を沸かせました。

《第67回全国統計大会》記念撮影



業務多忙の中、全国統計大会にご参加、祝辞を頂いた野田聖子総務大臣
全体の記念撮影終了後には子供たちからの一緒に写真撮っての声に応じて大忙しでした



日本統計学会会長賞を受賞の上岡さん親子
日本統計学会の赤平会長、
日本品質管理学会の榊会長と一緒に記念撮影



日本品質管理学会賞を受賞の小川さんご一家
昨年は文部科学大臣賞を受賞されました

《第67回全国統計大会》の会場



晴天に恵まれた代々木のオリンピック記念青少年総合センターカルチャー棟



エントランスホールでは第64回統計グラフ全国コンクールの受賞作品や優秀作品を展示